

[第4号議案]

4-1. 2024年度事業計画書

1. 概況
2. 会員数について
3. 会議等に関する事項
4. 実施事業1：一般社団法人としての運営
5. 実施事業2：若手活性化
6. 実施事業3：会員交流
7. 実施事業4：イベント・国際連携・学会連携
8. 実施事業5：最強データベース講義
9. 実施事業6：データ作法（セミナー等）
10. 実施事業7：学生企画
11. 実施事業8：産学連携推進
12. 実施事業9：情報システム
13. 実施事業10：広報
14. 実施事業11：論文誌編集
15. 実施事業12：表彰
16. 実施事業13：ハラスメント防止・D&I推進

2023 年度事業計画書

1. 概況

当法人は、前身である任意団体日本データベース学会の事業を切れ目なく引き継ぐと共に、定款第3条に定める「データ、データベースならびにデータ高度応用・システムを主軸とした科学・技術の振興と人材の育成を図り、国内外のデータベース関連学術団体と連携しつつ、フットワーク軽く、産学連携、国際的協調、新領域開拓を先導し、学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与すること」を目的として活動を進める。

2024年度は、一般社団法人日本データベース学会としての事業を行う4年目となる。2021年度には各種規程を制定し、一般社団法人としての活動を開始した。2022年度には役員を改選し会長が交代したのに伴い、委員会構成を整理し、新しい体制で学会活動を実施した。2023年度は、より良い活動を目指して必要な制度改正、内規の整備を行い、さらなる学会発展を目指す方向性、活動について議論した。2024年度は役員改選を行い、委員会体制を刷新し、新たな活動として若手活性化、会員交流に焦点をあて事業を推進する。これにより、本会の目的にそって定款第4条第1項に定める事業を滞りなく行っていく。

具体的には、下記に示す重点活動項目の活動を通じて学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与する。

2. 会員数について

2021年度の定時総会までに、前身である任意団体日本データベース学会の全会員に対し移行意志の確認を進め、移行意志を確認できた者を定時総会が開催された時点での会員とした。その後、正会員、学生会員、維持会員ともに順調に増加している。それに加えて、2021年度よりDEIMの参加者はDBSJ会員となることのできる特典を享受できるようにしたことにより、正会員数が2022年度は822名、2023年度は895名と大幅に会員が増加した。

	2021年度総会	2022年度総会	2023年度総会	2024年3月末
正会員	484名	822名	895名	904名
学生会員	74名	503名	750名	792名
維持会員	21社	26社	26社	26社

2023 年度定時総会で定款を改定し、正会員を第一種と第二種に分割し、従来のフルアクセス権付正会員を第一種、フルアクセス権なし正会員を第二種に移行した。従来 DBS 研、DE 研登録者はフルアクセス権付だったが、その特典を無くし、第一種正会員は年会費を支払うこととした。ただし、DEIM 参加者は翌年度の年会費を免除する。これにより、その年度の年会費を支払ったか、前年度の DEIM に参加した正会員が第一種正会員となる。2023 年度末時点で、第一種正会員は 355 名、第二種正会員は 549 名である。

2024 年 4 月に DEIM2024 参加者から第一種正会員、学生会員への登録作業を行った結果、第一種正会員と学生会員が大幅に増加した。また、初めて名誉会員として 15 名を任命した。

2024 年 3 月末時点、総会時点での会員数を以下に示す。

	2024 年 3 月末	2024 年総会時点
第一種正会員	355 名	419 名
第二種正会員	549 名	525 名
学生会員	792 名	986 名
名誉会員		15 名
維持会員	26 社	24 社

今後も DEIM 参加者が DBSJ 会員となることのできる特典を継続するとともに、セミナーやフォーラムの機会を通じて、会員増加に努めていく。

3. 会議等に関する事項

下記の会議を計画する。遠隔会議システム等を利用し効率的な運用に努める。

3.1 2024 年度 定時総会

2024 年 6 月 22 日(土)に開催する。

3.2 理事会および各種委員会

理事会および各種委員会はオンライン開催を基本とするが、必要に応じてリアル会場を交えたハイブリッド開催を行う。

理事会は年度内に 6 回以上開催し、学会活動に関する諸事項を審議する。

各種委員会は必要に応じて開催し、諸活動における諸事項を審議する。

4. 実施事業1：一般社団法人としての運営（定款第4条第1項8号）

担当：総務委員会・財務委員会

総務委員会および財務委員会は、一般社団法人日本データベース学会の運営を円滑に進めることを目的に活動している。日常業務を効率よく推進すると同時に、よりよくするために継続的に改善している。

活動概要では、今年度の改善項目を挙げている。

【活動概要】

4.1 会員・会費制度の継続的見直し

昨年度改正した会員・会費制度に則った会員運営並びに会費徴収を遂行するとともに、継続的な見直しを実施する。また、名誉会員の規程または内規を整え、名誉会員を選出する。

4.2 委員会や組織の構成の継続的見直し

定款第4条に示す本会が推進すべき事業を円滑に進めるため、委員会や組織の構成を随時見直し、期中であっても柔軟に対応できるよう、必要に応じて委員会や組織の構成を変更していく。その対応をするための予算を計上する

4.3 DBSJ 主催による各種活動の支援

DBSJ 主催イベントを活性化するため、DEIM 等の DBSJ 主催の各種イベントの開催における一部経費を支援する。

4.4 事務局業務の円滑な遂行

事務局業務を円滑に遂行するため、事務局業務の一部委託を継続する。

また、専門的な知識が必要となる課題を解決するため、必要に応じて専門家への業務委託を実施する。

4.5 理事交代方法改善の検討

次回の役員選挙に向けて、役員候補者を検討する際に、理事交代の方法を改善することで実施事業の継続性担保を検討する。

また、連携組織（DBS, DE, SIGMOD-J）の組織長が理事以外の人になった場合等の対応についても検討する。

4.6 会計業務の継続的見直し

昨年度、一般社団法人日本データベース学会は、消費税課税業者となった。さらに、2023年10月からはインボイス制度、2024年1月1日からは電子帳簿保存法が施行されたため、外部の税理士法人による定期的な内部会計監査などを実施してきた。今年度も必要に応じて会計業務の継続的な見直しを実施する。

4.7 本会活動の継続的検討

一般社団法人日本データベース学会として、本会の活動全体を定款第4条第1項の各号の内容にそって、継続的に見直しを進めていく。

5. 実施事業2：若手活性化（定款第4条第1項8号）

担当：若手活性化委員会

本事業の目的は、本学会の未来を担う若手研究者の活動を活性化させるための機会を提供するものである。若手研究者が主体的に行う研究活動の事務的・金銭的支援や、若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動を DBSJ として実施する。

【活動概要】

- (1) 若手研究者がオーガナイズするワークショップ(もしくは招待セッション)開催支援
毎年9月に開催する WebDB 夏のワークショップ等において、若手研究者によるワークショップ企画もしくはオーガナイズドセッションを募集すると共に開催支援を行う。具体的には、招待講演者招聘費用等の金銭的サポートを行うと共に、会場手配等の事務手続きを本委員会がサポートする。本活動により、若手研究者の負担を軽減しつつ、若手研究者の研究活動活性化に寄与することを目指す。ただし、あくまで若手研究者が自ら提案するプロポーザルのみを対象とし、提案することそのものが若手研究者の負担とならぬよう最大限配慮する。
- (2) 若手オーガナイズド研究イベントの研究業績(ジャーナル)化支援に関する検討
若手研究者が提案・実施する研究イベントにおける研究発表に対して、これを提案・実施した若手研究者をゲストエディタとする DBSJ 論文誌特集号のような形で発行することについて、論文誌委員会とも連携しながら検討する。
- (3) 若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動の検討
WebDB 夏のワークショップや DEIM フォーラム等において、若手が励みになるよう

な若手研究者向けの賞を検討するなど、若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動について、表彰委員会とも連携しながら検討する。

(4) 若手活性化事業の広報および若手の要望を抽出するための Web サイト構築

本委員会の活動を広報するための Web サイトを DBSJ の Web サイトの中に立ち上げる。若手オーガナイズド研究イベントの公募や若手が気軽に提案できるようサイト運営について検討する。

6. 実施事業 3：会員交流（定款第 4 条第 1 項 8 号）

担当：会員交流委員会

本事業の目的は、DB コミュニティの学生を含む若手研究者の交流を促進するための機会を提供するものである。DB コミュニティに関連する学術イベント等において、会員同士が交流出来る場を提供し、特に若手研究者同士の交流を促進することで本コミュニティの活性化に寄与することを目指す。

【活動概要】

(1) WebDB 夏のワークショップにおける交流会の開催

研究発表セッション終了後にアルコールの提供を伴う交流会を開催する（アルコールの提供量を制限するなどハラスメント事案にならないよう最大限の注意を払う）。

また、交流会においても、会員交流促進の重要性を参加者に共有し、DBSJ における会員交流の在り方についても意見交換を行う。本件に関しては、DBS 研や DE 研とも連携する必要があることから、学会連携委員会とも連携しながら検討・実施する。

(2) DEIM オンサイト企画「ネットワーキング」のサポート

毎年更新される組織委員による運営を DBSJ がバックアップすることで、「ネットワーキング」イベントの継続的・安定的な実施をサポートする。本件は、DEIM 内で実施するイベント企画であるためイベント委員会とも連携しながらサポート方法について検討する。

(3) 会員交流促進に関する方策の継続的な検討

本学会における会員交流の促進は重要な課題である。そこで上記の活動に限らず、継続的に会員交流促進に関する方策の検討を行う。なお、この検討は当委員会メンバー内の議論に閉じることなく、交流会の場などでも問題意識を共有することで、多くの学会会

員に当事者意識を持ってもらい学会全体で検討していく。

7. 実施事業4：イベント・国際連携・学会連携（定款第4第1項1号）

担当：イベント委員会・国際連携委員会・学会連携委員会

本事業の目的は、DB コミュニティのメンバー間の情報交換・情報共有を促進するため、様々な形態のイベントの企画、海外のDB コミュニティとの連携、および他学会との連携を図ることである。国内のDB コミュニティの活性化及び拡大化のためのイベントとしては、DEIM, SoC, WebDB 夏のワークショップを企画・運営する。国際連携では、ACM との連携(SIGMOD-J)、および日本と韓国(KJDB)、中国、タイ間のDB コミュニティとの連携を深める。学会連携ではDBSJ と各学会のDB 系研究会との連携を深める。

【活動概要】

（イベント）

(1) データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム（DEIM）

DEIM2025 は、昨年度の形態を引き継ぎ、口頭発表はオンラインにて、その後ポスター発表及びチュートリアルは対面（現地）にて行う直列型ハイブリッドにて開催し、コミュニティの活性化をはかる。なお、日程は2025年2月～3月を予定し、DEIM 参加者がDBSJ 会員を1年間継続できる特典を継承する。また例年通りDBSJ アワーを開催する。

(2) ソーシャルコンピューティングシンポジウム（SoC）

DBSJ の研究分野の一つとして、ソーシャルメディアを対象とした研究が多数ある。このソーシャルメディアを対象とした研究交流の場としてSoCを開催する。開催形態は、ハイブリッドにて2日間の開催を予定。招待講演を2件程度行い、DBSJ 総会と同時開催を行う。また、産学連携イベントの併設も検討する。

(3) WebDB 夏のワークショップ

2022 年度より WebDB 夏のワークショップとして名称変更とともに開催形態をDBS/DE/IFAT 合同研究会形式に変更した会議である。DBSJ が協賛し、9月に開催する予定である。特に、若手活性化メニューについても検討を行う。

(国際連携)

(1) ACM: SIGMOD-J

SIGMOD-J は ACM SIGMOD の日本支部であるが、DBSJ との一体運営を行っている。SIGMOD-J の目的は、海外のトップ Conference に若手研究者を派遣（もしくはオンライン参加）し、そのトピックを DBSJ 会員に対して報告を行うことにより、DBSJ 会員の若手研究者の育成及び DBSJ 会員の最新研究事情の理解である。2024 年度は 3 回の開催（ICDEorWWW, SIGMOD, VLDB）を予定している。

(2) 韓国: Korea-Japan (Japan-Korea) Database Workshop (KJDB)

韓国 DB コミュニティと日本 DB コミュニティとの交流を目的とし、毎年日韓交互にオーガナイザーとなり秋に開催している会議である。2024 年度は韓国がオーガナイザーとなり秋頃に韓国現地開催を予定している。なお、2023 年度より KJDB の Chair は吉川正俊先生である。

(3) 中国

2018 年 CCF TCDB（中国計算機学会データベース专业委员会）と MOU を締結し、連携を強めている、コロナ禍のため連携ワークショップを開催できなかったが、2024 年度はオンラインでのワークショップ開催を検討する。

(4) タイ

タイの DB コミュニティとの連携について、具体的な連携イベントの検討を開始する。

8. 実施事業 5：最強データベース講義（定款第 4 第 1 項 1 号及び 7 号）

担当：DBSJ 講義委員会

本事業の目的は、DB 関連分野の各項目について、その道の第一人者ならではの「面白く」「わかりやすい」講義コンテンツを提供し、大学の枠を超えた最強のデータベース講義コンテンツライブラリを構築する事である。

【活動概要】

これまでの本事業の経験および DB シラバス関連調査事業の結果を踏まえ下記を実施。

(1) 講義コンテンツの作成と配信

- (a) 最強データベース講義：大学院生，エンジニア，研究者を対象とした講義
 - (b) 最強データベース講義ベーシック：初学者（学部生）を対象とした講義
 - (c) 最強データベース教材：教員や企業での教育担当者を対象とした講義
- (2) 講義コンテンツ活用に向けた広報や調査
 - (3) タグ付けや講義間の関係などの整備と公開
 - (4) 講義コンテンツの LLM 学習や RAG 等への利用を想定したデータセット整備と提供
 - (5) コンテンツを利用した勉強会等派生イベント，他の活動(DEIM 等)への接続性の検討

9. 実施事業6：データ作法(セミナー等) (定款第4第I項1号及び5号)

担当：セミナー委員会

本事業の目的は，セミナーを通じて，研究者や技術者がデータを利活用する際に必要となる法的な課題や倫理的な課題を熟知し，法的に問題とならないデータを利活用した研究開発の推進を支援することである。

【活動概要】

「私達は法に準拠してデータをどうやって集めてどのように使えばよいのか？」という研究者や技術者の疑問を解消するためのセミナーを 2019 年度から著作権法や個人情報保護法，AI や医学系研究の倫理等に関する課題などを対象として開催してきた。このような法律に関わる課題に取り組むため，法律の専門家による法的な話題の講演に加えて，企業などからの実践的な課題に対する講演，さらには参加者を交えた深堀の議論をするためのパネルディスカッションで構成されるセミナーを開催しており，2024 年度はオンラインで複数回開催し，そのうちの一部を対面で開催する予定である。

10. 実施事業7：学生企画 (定款第4第1項3号)

担当：企画委員会

本事業の目的は，本学会に関わる学生の成長を促すことを第一義とし，学生自身が活躍できる機会を提供するものである。学生自身が関心を寄せるトピックを中心に，学生が主体的かつ能動的にイベント等の企画ならびに運営ができるよう，DBSJ として支援する。

【活動概要】

(1) イベント・プログラムの企画～設計の支援

学生自身とのプレストを通じて、学生が求めている「場」を明らかにし、イベント等に仕立てるまでの伴走をする。イベントはオンラインに限らず、オンサイト開催も視野に入れて検討をする。

企画の工程やイベントそのものを通じて、DBSJ に対する学生からの要望や意見を把握し、学生自身がより学会を有効活用できるよう DBSJ 自体の update を図る。結果としてより多くの学生に会員となって頂くことにも繋げていく。

(2) イベント・プログラムの運営支援

実際に設計されたイベントの開催において側方支援を行う。必要に応じて予算措置を講じる（会場手配や謝金等）

1 1. 実施事業 8：産学連携推進（定款第 4 第 1 項 3 号）

担当：産学連携委員会

本事業の目的は、アカデミアとインダストリアルの間、さらにはインダストリアルとインダストリアルの間における技術的な情報の共有、人的な交流を促進することで、データ工学に関連する産業全体の発展を目指すことにある。本年度も引き続きインダストリアルからプロダクトやデータ、あるいはアカデミアにおける研究テーマになりうるような課題を提供し、それらを活用頂くためのプログラムやイベントを開催、それらの場を通じた交流を図る。

【活動概要】

(1) プロダクト提供型アカデミック支援プログラム

下記プロダクト活用を通じた研究を支援すると共に、研究を通じて人的交流も図る。

- ・東芝デジタルソリューションズ：GridDB Enterprise Edition（プロダクトのみ提供）

(2) データ提供型アカデミック支援プログラム（IDR ユーザフォーラム）

DBSJ 維持会員企業ならびに国立情報学研究所 情報学研究データリポジトリ（以下、IDR）に参画している企業より希望者に対しデータを提供し、実データを使った研究を支援する。本プログラムの参加者は、研究テーマを自由に設定し、例年秋季に開催される IDR ユーザフォーラムにて成果を報告する。また同フォーラムにおける優秀な発表に対して DBSJ 特別賞を授与、副賞として同年度の DEIM に招待、口頭発表の機会も

提供する。

(3) 産学マッチング促進のための取り組み

技術交流、人的交流両方の観点にて、産学連携を促進するための新たな取り組みを実施する。また、この取り組みに参加する企業間のコミュニケーションを創出することで産学連携の機会も創出することを試みる。具体的には、下記の2つの取り組みをDBSJ主催のイベント時に実施する。

・産学が双方に期待することのディスカッション

企業側にてどのような技術や人材が必要とされているのかをアカデミア側に共有したり、逆にアカデミア側からどのような形でそのような情報を企業側から伝えるべきなのかを企業側に共有することは、産学マッチング促進のための第一歩と考える。この考えの下、パネルディスカッション等、アカデミア・企業双方からの参加者がディスカッションする場を設ける。(6月のSoC2024を想定。)

・企業が抱えている技術課題を共有するセッション

前述のディスカッションをスケールアップさせる目的で、企業側が抱えている様々なビジネス課題やタスクについて、アカデミア側に共有するセッションを設ける。アカデミア側から見ると、企業側のビジネス課題やタスクは、良い研究テーマになりうる可能性を秘めており、産学間の共同研究促進が期待できる。必要に応じて参加者にNDAにサインすることを求めることで、企業側が共有しやすい仕組みを取り入れる。(3月のDEIM2025を想定。)

12. 実施事業9：情報システム（定款第4第1項6号）

担当：情報システム委員会

本事業の目的は、会員データベースシステム、会員メーリングリスト dbjapan 等の情報システムに加えて、本会ホームページ、本会 Facebook などの電子広報用のシステムやサービスの安定運用と維持管理を行い、本会の運営をサポートすることである。

【活動概要】

2024年度はホームページや会員データベースのより安定的な運用をはかる。

(1) Web・会員DBの運用・維持

1 3. 実施事業 1 0 : 広報 (定款第 4 第 1 項 2 号)

担当：広報委員会

本事業の目的は、国内外の DB 関連技術の研究動向および DB コミュニティの活動動向を電子的に広報することである。

【活動概要】

News Letter の刊行

- (1) 発行巻 8 号：Vol. 17, No. 1～8
- (2) 掲載記事計画：
 - ・ 定期(隔月)6 号：国際会議参加報告および会議開催報告など
 - ・ 企画①：DBSJ 各賞 受賞者の声
 - ・ 企画②：若手研究者の声など
- (3) 本会 Web ページにおいて News Letter のマルチメディア化、また、これまでメールに依存していた広報を、多くの世代に対して対応するため、複数の SNS を利用した手段への拡大を継続していく。特に、若い人向けには LINE や X の活用を検討する。

1 4. 実施事業 1 1 : 論文誌編集 (定款第 4 第 1 項 2 号)

担当：論文誌編集委員会

本事業の目的は、論文誌の発行を通じて、データベース、メディアコンテンツ、情報マネジメント、ソーシャルコンピューティングに関する科学・技術の振興を図り、もって学術、文化、ならびに産業の発展に寄与するという本学会の目的に貢献することである。

【活動概要】

日本データベース学会論文誌 (和文・英文) および論文誌「データドリブンスタディーズ」を発行する。

- (1) 日本データベース学会論文誌 (和文・英文) の発行
- (2) 論文誌「データドリブンスタディーズ」の発行
- (3) 論文誌に関する課題 (投稿数増加, データアーカイブ) について検討

- (4) 他委員会と連携し特集号の発行を企画する

15. 実施事業12：表彰（定款第4第1項8号）

担当：表彰委員会

本事業では、功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞を選定し、表彰を行う。

【活動概要】

2024年度表彰として、例年通り功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞を選定し、表彰を行う。規程や賞金額の見直しなどについて議論する。フェロー制度について検討を開始する。

16. 実施事業13：ハラスメント防止・D&I推進（定款第4第1項4号及び8号）

担当：ハラスメント防止・D&I推進委員会

本事業の目的は、DBSJ内のダイバーシティ&インクルージョンを推進し、ハラスメントを防止するための活動を通して、DBSJに関わる全ての人の基本的人権および尊厳を守り、各自が安心して快適に学会活動に従事できるようにすることである。

【活動概要】

ダイバーシティ&インクルージョン推進のためのセミナーやパネルディスカッションを通じた啓蒙活動、さらにDEIMを中心とした学会におけるハラスメント防止などの活動を実施する。

- (1) D&I推進事業（男女共同参画学協会連絡会への対応を含む）

- ① 主催イベント：合理的配慮の提供に関するセミナー・ディスカッション開催
- ② 後援予定：IEEE WIE 2024 他

- (2) ハラスメント防止委員会

日本データベース学会関連イベントでの行動規範を宣言しWebで公表
行動規範逸脱の通報ルールに関する内規を整備・更新